

平成29年度 第1回

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議

議事要旨

宇治市

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事要旨

<開催年月日> 平成29年8月2日(水)10時00分~11時20分

<開催場所> 宇治市役所7階 特別会議室

<出席者>

多田 重光	公益社団法人宇治市観光協会 専務理事兼事務局長
長谷川 節穂	宇治商工会議所 専務理事
安藤 和彦	ユマニテク短期大学 教授
真山 達志	同志社大学 教授
服部 広志	株式会社京都銀行宇治支店 支店長
西村 徹也	連合京都南山城地域協議会 事務局長
三田 真史	京都新聞社 文化観光担当部長
高田 悦子	特定非営利活動法人働きたいおんなたちのネットワーク 理事
寺川 徹	市民委員
山口 万紀	市民委員

計10名

<事務局等>

木村 幸人	宇治市 副市長
貝 康規	政策経営部 部長
岩本 裕子	政策経営部 副部長
山田 雅彦	政策経営部行政経営課 課長
大北 浩之	政策経営部行政経営課 副課長
亀井 明美	政策経営部行政経営課経営推進係 主任

計6名

<会議次第>

1. はじめに
2. 議事
・宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略にかかる事業評価報告（案）等について
3. 閉会

<会議内容>

1. はじめに

事務局）失礼いたします。それでは、定刻になりましたので、会議を始めさせていただきます。本日は、皆様方には大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

《欠席委員の報告》

次に、配付資料の確認をさせていただきます。事前にご送付させていただいておりました資料も含めまして次第、席次表、平成 28 年度事業の総合戦略にかかる事業報告書はすべておそろいでしょうか。不足するものがございましたら、後ほどでも結構ですので、事務局にお申し出ください。

それでは、会議の開催にあたりまして、副市長よりご挨拶を申し上げます。

《副市長 挨拶》

それでは、これより委員長に進行をお願いいたしますので、どうぞよろしく申し上げます。

2. 議事

・宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略にかかる事業評価報告（案）等について

委員長）それでは、私の方から会議次第により進行させていただきます。

その前に、会議前の連絡事項を申し上げます。本日の委員会について、傍聴の申請があり、これを許可しましたので、ご報告いたします。

それでは、これより宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を開会いたします。お手元にあります会議次第 2、議事の「宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略にかかる事業評価報告（案）等について」を事務局より説明をいただきたいと思っております。

資料に基づき事務局から説明

委員長) ありがとうございます。

それでは、質疑に移らせていただきますが、本会議におきましては、会議録を作成いたします。会議録は、情報公開の対象となりますので、予めご承知おきください。

事務局の説明に対し、ご意見やご質問のある方は、挙手をお願いいたします。

委員) 44ページの第3子の保育料無償化の実施部分で18歳未満の子どもが3人以上いて、保育所等を利用している第3子以降の保育料減免、無償化を行った、とありますが、18歳未満がすべてというわけではなく1号認定、2号認定、3号認定で分かれており、1号認定であれば小学校3年生以下の年長の子どもから順に第2子の保育料に反映があり、第3子以降が無料とか、2子3子であれば就学前の子どもの中の年長の子どもから順に軽減というふうになっていたと思います。その辺はおおまかに18歳未満の子どもが3人いれば無償化と記載されているのでしょうか。私的には18歳未満の子どもがいれば減免されれば理想ですが、事情が少し違ったのではないのでしょうか。

事務局) 詳細については、確認します。

委員) 私は、事業報告書に書いてあることが理想なので、実際のところをご確認いただきたいと思います。

委員) 44ページ同部分で年齢を18歳未満に拡大して第3子以降の保育料減免を拡大したと報告があり、実績でみると減免対象人数308人、減免額60,824千円とありますが、昨年度の報告書の同事業部分の第3子の保育料無償化の実施部分は助成金交付人数が413人、助成金交付額が64,959千円と縮小しています。人数でいうと4分の1くらい減っています。報告全体をみて思ったのですが、個々の表を見ていると順調で横ばいに見えますが、前後の連動をみていかないといけないのではないのでしょうか。人口は当然減っていきませんが、前後の数字をみないと対策というのは立てられないのではないのでしょうか。

拡大したはずが、数字が減っている、という部分についてはいかがでしょうか。

事務局) 確かに平成27年度から18歳未満に対象年齢を拡大して実施しています。委員ご指摘のとおり、交付件数でいうと大きく減っています。詳細な分析を行わないと

分かりませんが、全体の人口が減って対象者数が減っているということもあるかもしれません。また、経年変化を追わないとこの場で十分なご意見をいただく判断材料として乏しい部分もあると思いますので、次年度以降どのような形で報告させていただければよりご議論いただけるのかを加味しながら、様式等については再度検討させていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

ご指摘いただきました点については、原課に確認しながら改めてご報告させていただきますのでよろしくお願いします。

委員) その辺りをしっかりしていけないといけないのではないのでしょうか。総合戦略で子育て支援しますとしていますが、具体的なことが、様々な課に関わることでありますが、全体的に意識づけができていないのではないかと思うことがよくあります。44ページの不妊治療補助事業の助成件数も1年前の実績をみると減っています。こういった観点から検証を行えば、弱い部分に力を入れることが出来ます。

委員長) 市の制度の事業報告があいまいな部分がありますが、対象2つが減っているということになりますと3人以上子どもがいる世帯が減っているということの表れかもしれませんし、それは少子化が進んでいるという要素なのかもしれませんのでこれがどんどん減っていくとなると世帯あたりの子どもの数が減っているということも推計されますので、少子化対策としてはあまり成果が出ていないということになりかねませんのでこの辺りの数字をしっかり見ていく必要があると思います。もっとも、不妊治療については、増えるのがいいといわれればいいのかもかもしれませんが、治療しなくても済む人が増えているのであればそれはそれでいいことですし、数字の分析をちゃんとしないと分かりません。

この委員会ですべての項目について細かくチェックするというところまでは出来ませんが、事務局で報告書の取りまとめで終わりではなく経年変化や数字の持っている意味について検討いただければと思います。

他に何かありませんか。

委員) 何の事業をするにもお金がかかりますが、44ページの不妊治療の補助事業の金額はたったこれだけなののでしょうか。例えば、母子手帳の表紙がミッキーマウス等のキャラクターになっていますが、それよりも補助を優先してほしいと声がありますがいかがでしょうか。

委員長) 補助や助成の金額は多いに越したことはありません。どんどん増やせるものは増やせたらいいと思いますが、予算の関係もあってなかなか思うに任せぬところもあると思います。同じお金の使い方という点で母子手帳の例がございましたが、私もよくわかりませんがミッキーマウスの絵があるのとないのでは・・・。

委員) ミッキーマウスは商標登録があって、使用するのに莫大なお金がかかると聞いています。キャラクターは好き嫌いがあるので、そこにお金をかけるよりも子育てしやすい、子どもの数が増えていくような事業にお金を使用してもらいたいと市にお願いしたいと思います。

事務局) 母子手帳でいうと、宇治市独自で作成したものではなく一般的なものを買って配布しているものなので独自性というのはありません。ただ、ご指摘をいただいている不妊治療もそうですが、あらゆる事業の中で優先順位を決定し、より効果がある方に重点的に予算をシフトしていくということは我々としては常にやっているつもりですが、今の委員のご意見も踏まえながらさらに精査をしていきます。

委員長) 他に何かございませんか。

すべての指標に改善したというわけではありませんが、概ね効果が出つつあるものが多く、具体的な見直しはせずに今回はこの取組をもうしばらく続け、一部目標が達成されましたKPIにつきましては上方修正をしていくという修正にとどめるということです。今ご意見をいただきましたように個別の取組等についての数字については28年度の成果として出ていくわけですが、経年変化や増減の要因や社会的に持つ意味の分析も、それぞれの所管の部署でやっていただくのが本来であると思いますが、その辺りもやっていただくということをお願いいたしまして総合戦略事業報告書につきまして、市として取りまとめられたということをご了承いただけますでしょうか。

委員が了承

委員長) では、委員会としては、ただいま申し上げた要望を事務局に出しまして、報告書についてこの内容を了承したものといたします。

3. 閉会

委員長) 今日は報告が中心となりまして、委員のご意見を伺うことができませんでしたが、本日の委員会を終了させていただきます。長時間にわたりましてありがとうございました。